



全国
松田サミット
in 松田町

平成 29 年 2/25(土)・26(日)

松田町民文化センター 大ホール

- 【主催】松田サミット実行委員会 / 松田町 / 松田町教育委員会
【共催】松田町観光協会 / 松田町商工振興会
【協賛団体】神奈川県県西地域県政総合センター

目 次

第1部 『松田氏史考』	5
第2部 『備前松田氏の足跡を訪ねて』	21
第3部 『小田原北条氏重臣・松田憲秀のこと』	43
松田サミット実行委員会 委員名簿	61

全国松田サミット in 松田町 2月25日(土)開催

松田氏子孫が語る講演会 次第

予定時間

- 13:00 開会のことば
町長あいさつ
来賓あいさつ
- 13:25 オープニングイベント 寺子屋まつだ コーラス
- 13:35 第1部『松田氏史考』
講師 松田勝徳氏 (備前松田氏研究家)
(休憩・舞台転換)
- 14:35 子ども英語スピーチ 寺子屋まつだ
- 14:45 第2部『備前松田氏の足跡を訪ねて』
講師 大村祐章氏 (玉松会 副会長)
(休憩・舞台転換)
- 15:35 第3部『小田原北条氏重臣・松田憲秀のこと』
講師 松田邦義氏 (相模松田氏子孫)
(休憩・舞台転換)
- 16:30 交流会【質疑時間】
集合写真撮影
- 17:30 閉会のことば

第1部

『松田氏史考』

講師：松田勝徳氏(備前松田氏研究家)

《講師の系図・プロフィール》

- 神奈川県逗子市在住
- 玉松会会員であり、会報誌『玉松会報』編集主幹、(備前)松田氏の研究家
- 備前松田氏最後の13代城主・松田元賢の弟・元脩が讃岐松田氏祖となり、その末裔にあたる
- 元脩は、落城後一族郎党25名を連れて瀬戸内海を渡り、讃岐詫間で新田と塩田開発により苗字帯刀で代々政所を務める
- 生家は讃岐松田氏の菩提寺妙法寺の檀家総代を代々務める

第1部

『松田氏史考』

講師：松田勝徳氏(備前松田氏研究家)

「松田氏史考」

(備前)松田氏研究家 松田 勝徳

1) 松田氏のおこり

鎌倉時代から識別性を強調して従来の「源・平・藤・橘」から、居住地や官職などを表わす苗字(名字)になり、松田氏は松田郷に居住し地名をもって苗字とした氏族です。

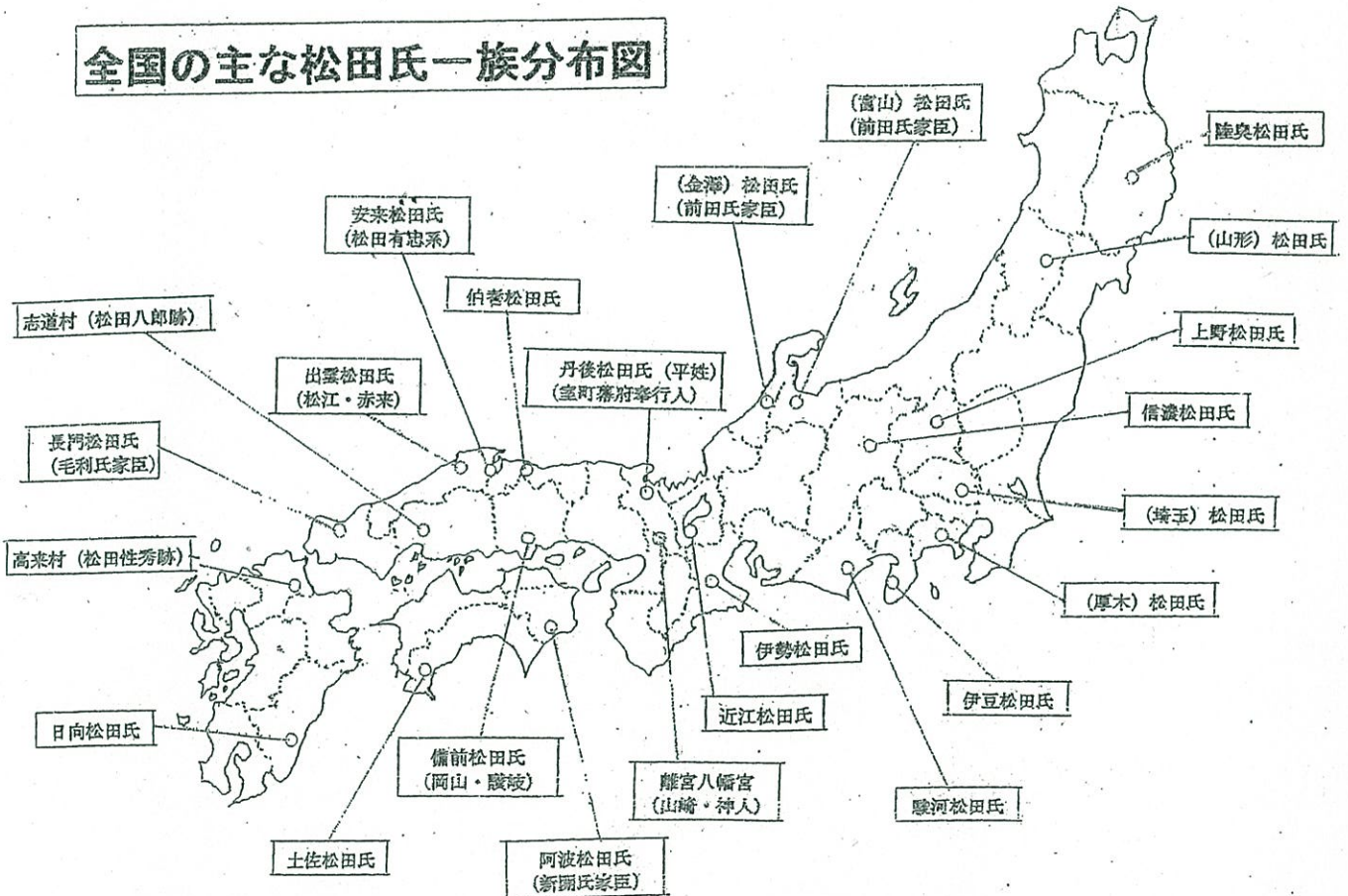
ここ松田郷は、本貫の地であり、発祥の地であり、松田一族の心の故里です。

松田氏の一級史料初見は、「吾妻鏡」に記載「文治4年(1188年)に大庭景義の許に預けられていた波多野義常の子有常が、鎌倉八幡宮の流鏑馬でその技能を発揮して松田郷を安堵され松田氏を名乗る」です。

主な「藤原秀郷流波多野氏系松田氏」は、「平将門の乱」の平定で知られる藤原秀郷の後裔で、もと相模国波多野郷(現秦野市)に住んで波多野氏を称した系譜に繋がる氏族です。

(尚「備前松田系図」では、「建保7年(1219)に藤原秀郷流藤原元信が松田邑に館を築き、依って地名を以て松田姓を名乗る。」が初見)

全国の主な松田氏一族分布図



●松田氏姓ルーツのベスト5

(「姓氏家紋大辞典」より集計)

順位	松田氏姓ルーツ名	件数
1	藤原秀郷流波多野氏系松田氏	31
2	藤原秀郷流松田氏	26
3	宇多源氏佐々木氏系松田氏	6
4	清和源氏新田氏系松田氏	4
5	日下部氏系松田氏	3

●松田氏家紋のベスト10

順位	家紋名	件数	順位	家紋名	件数
1	片喰紋	34	6	根笹紋	12
2	木瓜紋	24	7	五三桐紋	11
3	三階松紋	18	8	抱き茗荷紋	10
4	違い鷹の羽紋	16	9	巴紋	10
5	直違い紋	13	10	藤紋	10

王な松田氏系統別図

●藤原秀郷流波多野氏系松田氏		家紋		仕えた武將
◎相模松田氏	(神奈川・相模原)松田氏	二本直違		後北条氏
	(東京・足立)松田氏	二本直違		後北条氏
	(埼玉・杉戸)松田氏	二本直違		後北条氏
	(金澤・高岡)松田氏	丸に二引き		後北条氏
	(静岡・榛原)松田氏	丸に釘抜き		後北条氏
	(神奈川・厚木)松田氏	鷹の羽違		後北条氏
◎備前松田氏	(香川・詫間)讃岐松田氏	二本直違		足利氏 
	(岡山・真庭)落合松田氏	二本直違		足利氏
	(岡山・井原)井原松田氏	二本丁子		足利氏
	(岡山・御津)新庄松田氏	九 曜		足利氏
◎出雲松田氏	(島根・松江)白鹿松田氏	九 曜		尼子氏 
	(島根・飯南)赤来松田氏	左 三 巴		尼子氏
◎上野松田氏	(群馬・前橋)松田氏	丸に州浜		後北条氏
	(群馬・北原)松田氏	丸に州浜		後北条氏
◎伯耆松田氏	(鳥取・米子)松田氏	不 明		不 明
◎信濃松田氏	(長野・更埴)松田氏	揚げ羽蝶		上杉氏
◎阿波松田氏	(徳島・阿南)松田氏	丸に三階松		新開氏
●平姓藤原公親流				
◎丹後松田氏	(京都・日置)松田氏	丸に三階松		足利氏幕臣
●遠州井伊氏流				
◎土佐松田氏	(高知・宿毛)松田氏	不 明		山内氏
●上州新田氏流				
◎上州松田氏	(群馬・足利)松田氏	不 明		新田氏

その他近江佐々木氏流、日下部氏流などあり、因幡、紀伊、肥前、薩摩、日向、安芸、備後などに松田氏が存在します。(姓氏家系大辞典)

* 陸奥松田氏は、室町期葛西氏家臣で樋之口城主。相模国松田六郎勝重が祖という。(岩手・住田町)
 * 日向松田氏は、源義家の4男義忠・相州松田郷に居りて松田四郎と称して祖となる。(宮崎・延岡市)
 * 丹後松田氏は、平姓藤原公親流で、六波羅・室町幕府奉行人として活躍する。異流。(京都・日置町)
 * (山形)松田氏は、発祥未調査ながら日本一松田姓の多い地区(120軒)。(山形・天童市山口)
 * 阿波松田氏は、有常4代政常が祖。元弘以来足利方で新開氏家老として活躍。(徳島・阿南市)
 * 安来松田氏は、有常の子有忠、承久の乱に功あり、安来庄地頭となる。十神山城主。(島根・安来市)
 * 土佐松田氏は、発祥未調査ながら、宿毛城主松田兵庫と見ゆ。別名松田城。(高知・宿毛市)
 * 近江松田氏は、佐々木流京極氏家綱(高氏の孫)が松田を称する。蒲生氏発祥も有。(滋賀・草津市他)
 * 伊勢松田氏は、波多野氏族で河村氏ともに土着。神宮社家もあり。(三重・伊勢市他)
 * 離宮八幡宮松田氏は、社家(神人)で家紋は二本直違い紋。発祥未調査。(京都・大山崎町)

3) 南北朝時代の松田氏

相模松田氏、備前松田氏ともに当初は反幕府で一致し、建武政権樹立に協力するが、相模松田氏は現状維持し後醍醐天皇方(新田氏)に協力し抵抗、観応3年(1353)以後新田氏の敗退とともに勢力が衰えた。一方備前松田氏は、足利氏とともに足利政権に協力し、「備前守護」となり地盤を固め、50余年に及ぶ南北朝時代を乗り切った。

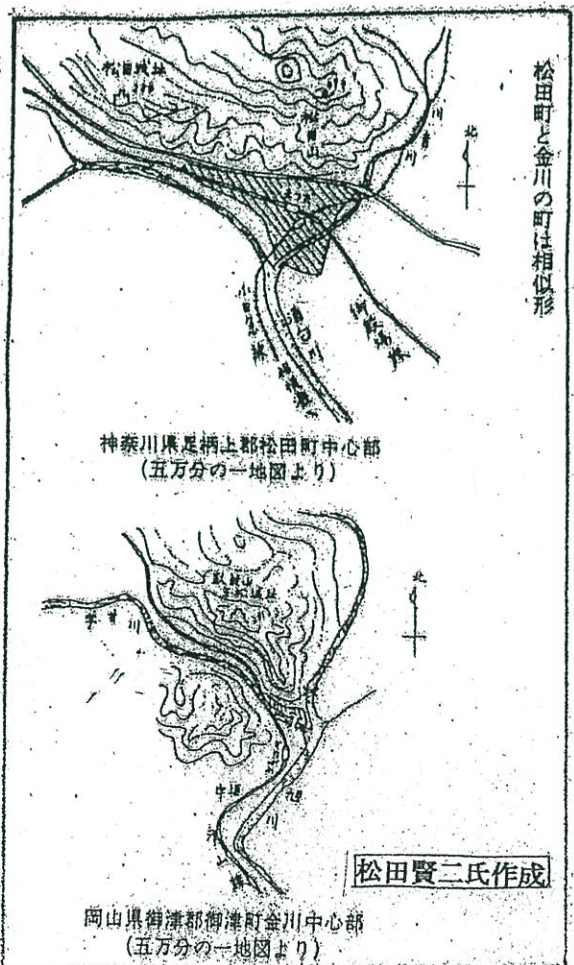
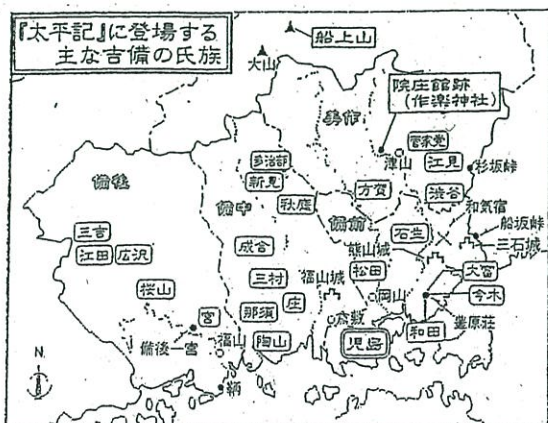
<松田氏年表②>

年号	西暦	松田氏関連事項 (●印備前関係)
★ 元弘3年	1333	三浦義勝の旗下に松田・河村氏入り、新田義貞軍に参陣。(大) ●大覚大僧正、三備(備前・備中・備後)に日蓮宗を広める。「備前法華」の始まり
★ 建武元年	1334	●松田盛朝、「備前国守護」となる。(岡)
建武2年	1335	新田義貞の征討軍の東下に対し、足利直義の旗下に松田・河村氏見ゆ。(大) ●松田元国、備前伊福郷に津島郷を加領され、加奈川から国替え。(松)
建武3年	1336	●備前一宮社(吉備津彦神社)に松田権守在判の下知状あり。(松)
暦応3年	1340	●石見国益田氏軍忠状に侍所松田左近将監(重明)の記載。約8年間。(～1348)
康永4年	1345	●松田元喬の法名銘の百ヶ日大覚題目石あり。岡山県重要文化財。(岡)
★ 貞和4年	1348	●四條繩手合戦、小旗一揆の高師直軍に松田左近将監重明、舎弟七郎五郎、子息太郎三郎、松田備前次郎、小次郎など見ゆ。(大)
★ 観応3年	1352	松田・河村氏の勧めで、新田義興、義治ら6千余騎で河村城に籠城。(大) ●松田左近将監、備前鹿田庄を侵す。(岡)
観応4年	1353	新田義興、義治ら河村城を落ちる。松田七郎行秀、松田新九郎ら討死。(大)
延元3年	1358	武蔵矢口渡しで新田義興ら自害。松田、河村氏ら首実験させられる。(大)
貞治元年	1362	●山名氏の備前仁堀侵入に対し、備前守護松田備前守(信重)陣を構える。(大)
明德3年	1392	●細川頼之の京都相国寺供養に、松田上野彦次郎満重(重秀)見ゆ。(岡)

備前国守護一覧 (『岡山県の歴史』・『赤磐郡誌』を参考に作成)

時代	守護	就任年	所管・領地	本拠
室町時代(のち戦国時代)	○ 松田盛朝	1333	備前	西備前
	○ 細川頼氏		備前	西備前
	○ 松田信重	1364	備前	西備前
	○ 赤松則祐	1368	備前・播磨	白旗城
	○ 赤松義満	1371	備前・播磨・美作	白旗城
	○ 赤松満祐	1441	備前・播磨・美作	白旗城
	○ 山名教之	1441	備前	福岡城
	○ 赤松政則	1467	備前・播磨・美作	福岡城
	○ 赤松義村	1496	備前・播磨・美作	福岡城
	○ 赤松政村	1520	備前・播磨・美作	福岡城
	× 浦上村宗	1521	東備前・西播磨	三石城
	× 浦上政宗	1531	東備前・西播磨	室津城
	× 浦上宗景	1531	東備前・美作	天神山城

○守護から守護大名へ移行 ○守護大名 ×戦国大名



4) 室町時代～戦国時代の松田氏

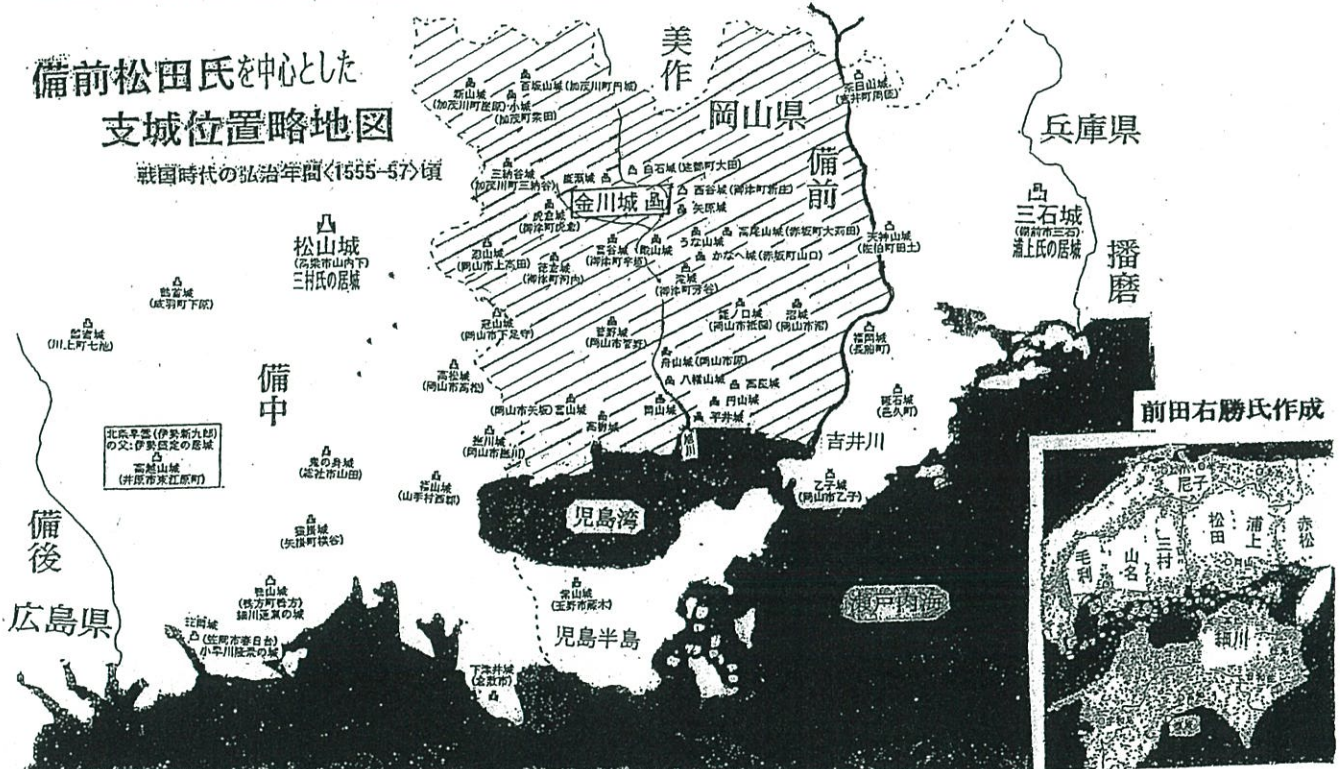
備前松田氏は、室町幕府体制のもと備前で確固たる地位を確立し備前一宮社、日蓮宗などを信奉のもと政教一致政策で約250年間西備前―帯を治めた。

その間備前松田氏は、永和元年(1375)以降京都室町幕府にて備前国では唯一松田氏一家のみ将軍近習や奉公衆として活躍する(別表参照)。

また備前松田氏には、下記の五流あり、

- ①三郎家 ②次郎左衛門家 ③六郎左衛門家 ④七郎家 ⑤左近将監家

①三郎家は、備前守と称し早くから備前に定着し、備前一宮社などの古文書に、②次郎左衛門家は、鹿田庄関係古文書に見えるが室町中期以降京都幕臣(近習・奉公衆)に多く見られる。③六郎左衛門家は、備前に所領を持ち京都幕臣に見られ、この系統が小田原北条氏に仕える。④七郎家は、室町当初には多く備前での活躍が見られるが、以後不明。⑤左近将監家は、室町当初より見られ特に中期以降顕著に見られ戦国大名化し永禄の落城まで続く(松田系図あり)。但し、松田一族内での松田五流の婚姻や養子縁組などで結束が考えられるが未解明。一方、相模松田氏は、一度苦境に陥るが備前松田氏(室町幕臣)が入り、小田原北条氏に協力し重臣として活躍する。松田憲秀の小田原城落城時の謀反は、一考する必要があるのでは……。



<備前松田氏の主力城> (8城)

*北。東は岡山市北区、東区を表示

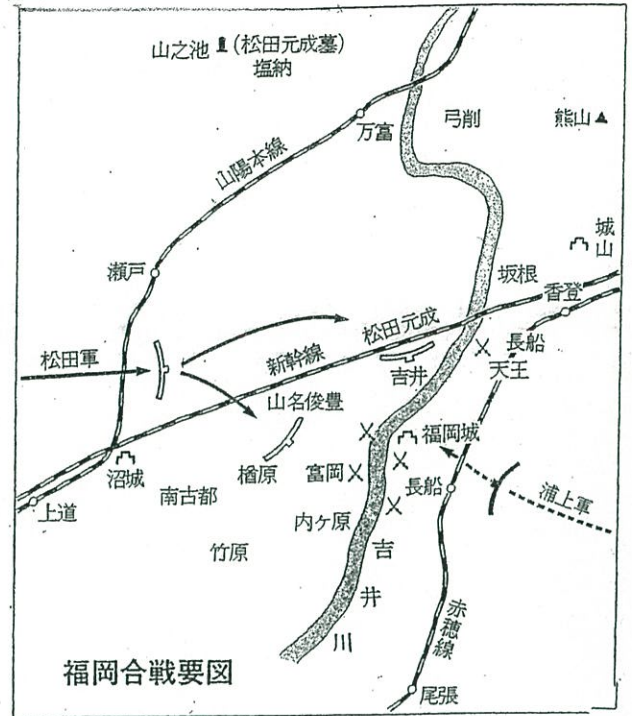
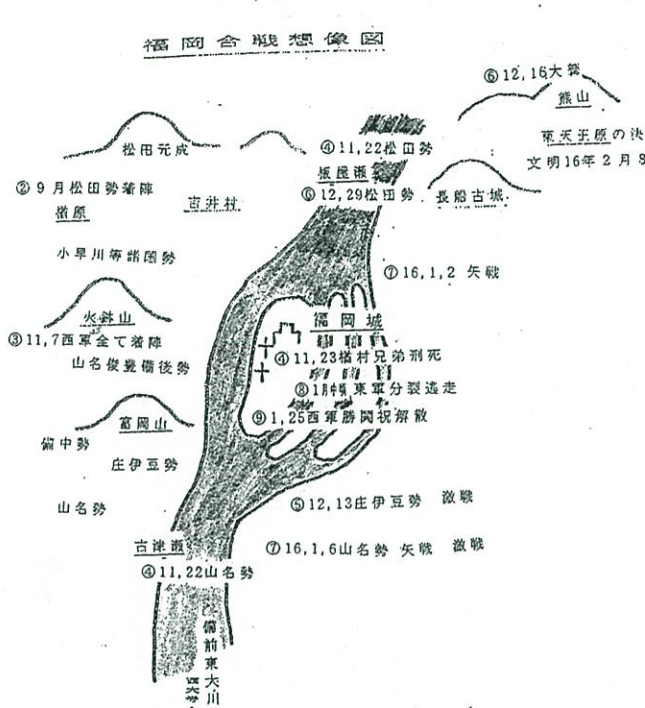
- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| ●金川城(北・金川) 松田左近将監(総領家) | ●西谷城(同・新庄) 松田彦次郎元秀(元成弟系) |
| ●岡山城(同・石山) 松田次郎左衛門元斉(庶子系) | ●富山城(同・矢坂) (重臣)横井土佐守 |
| ●徳倉城(同・河内) (重臣)宇垣市郎兵衛門 | ●西菅野城(同・西菅野) (重臣)横井土佐守 |
| ●虎倉城(同・虎倉) (重臣)伊賀左衛門 | ●田益城(同・田益) (重臣)横井土佐守 |

<備前松田氏に従った国人達の城> (22城)

- ・尾原城(北・加茂川市場)・・・新山民部介 / 平井城(北・平井)・・・平井勘之丞 / 百坂城(北・小森)・・・菱川右京
- ・沼城(北・沼)・・・中山備中 / 舟山城(北・原)・・・須々木豊前守 / 三納谷城(北・加茂川)・・・高見小四郎
- ・うな山城(北・上伊田)・・・長崎四郎左衛門 / 御野山城(北・御野)・・・須々木四郎兵衛 / 矢原城(北・矢原)・・・楢村氏
- ・殿谷城(北・伊田)・・・難波八郎左衛門 / 鍋谷城(北・加茂川)・・・河原備後守 / 高柳城(北・大野)・・・中島左京頭
- ・円山城(北・円山)・・・寺尾十左衛門 / 雨宮山城(東・赤坂和田)・・・和田伊織 / 白石城(北・建部太田)・・・橋本氏
- ・からから山城(東・山口)・・・岡 與左衛門 / 龜山城(東・沼)・・・寺井十郎左衛門 / 可真上城(東・可真)・・・上村氏
- ・高尾城(東・大苅田)・・・苅田四郎左衛門 / 比丘尼城(北・国富)・・・国富源左衛門
- ・龍の口城(北・龍の口)・・・撮所治部少輔 / 大鹿山城(北・御津大鹿)・・・草賀五郎兵衛

<備前福岡合戦> (岡山の戦国時代の幕開け)

備前福岡は、鎌倉時代の一遍上人の「一遍聖絵」の福岡市で有名で、政治経済の中心地であり交通(山陽道)の要地でした。守護所が置かれていた。文明15年(1483)の福岡合戦は、岡山の戦国時代の幕開けといわれ松田元成が備後守護山名俊豊の応援を得て備後・安芸・出雲・伯耆の兵及び加勢の備中勢の五千余騎で、守護赤松氏に反旗。攻防50日で勝利するが、深追いし松田元成自害。(松田・山名×赤松・浦上の対立)
(当時の福岡は、吉井川の流は東に2本流れていて中州のような所)



<玉松城命名500年記念碑>

永正6年(1509)に備前9代松田元勝(元藤)が、京都の三條西実隆公より金川城(松田城)名を賜り当時の中央と地方の交流の一端を表わす記念すべき貴重な一級史料を記念碑に標す。

玉松城命名五百年記念

實隆公記 永正六年(一五〇九)閏八月廿七日の條
泰首座今日下向備中云々 松田城名事先日所望之間
麗水玉松 二書遣之了

三條西家は 公家の中でも大臣になる家柄で 實隆は正二位内大臣にも昇進し 古典学者 歌人として当時の京を代表する文化人であった 特に応仁の乱の頃から戦国時代へかけて 六十三年間の日記「實隆公記」百七卷十三冊は 下剋上の風潮と陰謀渦巻く世相を伝え この時代の根本史料と評価されている

備前松田氏中興の主と言われた 第八代金川城主元成のあとを継いだ元勝は 西備前の武備と経営は 大村宇垣 楳村 横井氏等の扶翼により 人心の安定には日蓮宗の広宣につとめ 左近将監に任じられ 上洛しては京の人士との交遊を年々深め その縁浅からず奥方は三條右大臣實光公女と松田家系譜には記されている

麗水 玉松 扱一ならばと松田の松 臥龍山の松に通じる 玉松 が選ばれたが 乱世に玉の如く輝く松田氏それは願望であり祈りでもあったであろう

「實隆公記」のこの一文 簡にして短なりと言えども松田氏の歴史 金川の歴史に永く 千鈞の重みをもたらし続けるであろうことを祈念し 備前松田氏の氏神として 往古相模の国より勧請され 代々崇敬を受けてきた七曲神社の境内にこの碑を建立する

平成二十一年(二〇〇九)四月吉日

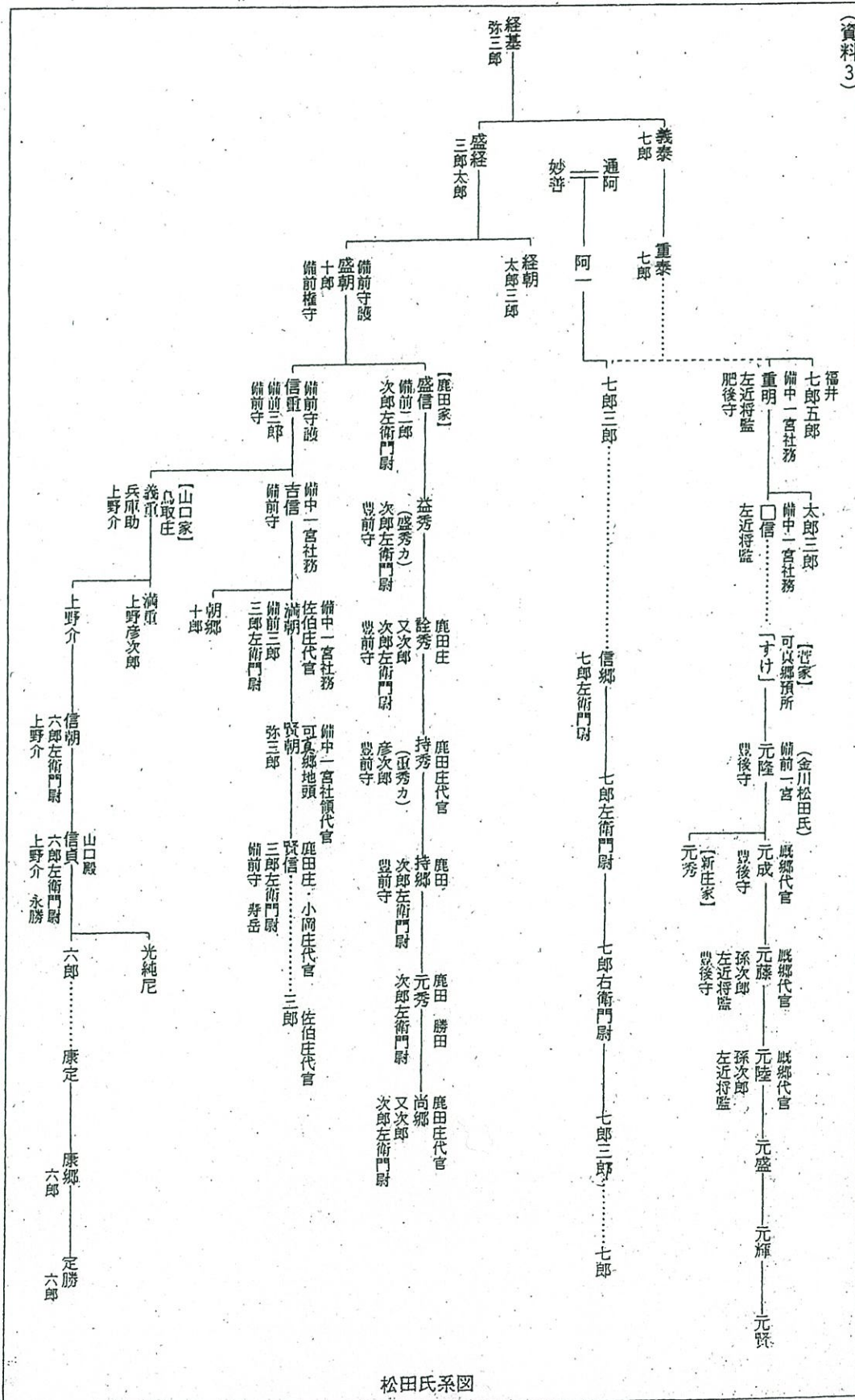
玉松 会



<備前松田氏五流の系譜>

下図は、東京大学史料編纂所教授榎原雅治氏が、平成12年に試案として作成された系図です。備前松田氏五流の系譜を史料に基づいて史料記載年代、官名、通称名などを加味して作成され歴史学会で初めて備前松田氏の全体像が明らかにされ脚光を浴びました。榎原教授は、史料の少ない備前松田氏の「中世の岡山」に君臨した実像を追求し、中央(京都)と地方(岡山)の関係を明示された「備前松田氏」研究の第一人者です。(備前松田氏は「直勤御家人」と云われている)

- ①三郎家 / ②次郎左衛門家 / ③六郎左衛門家 / ④七郎家 / ⑤左近将監家



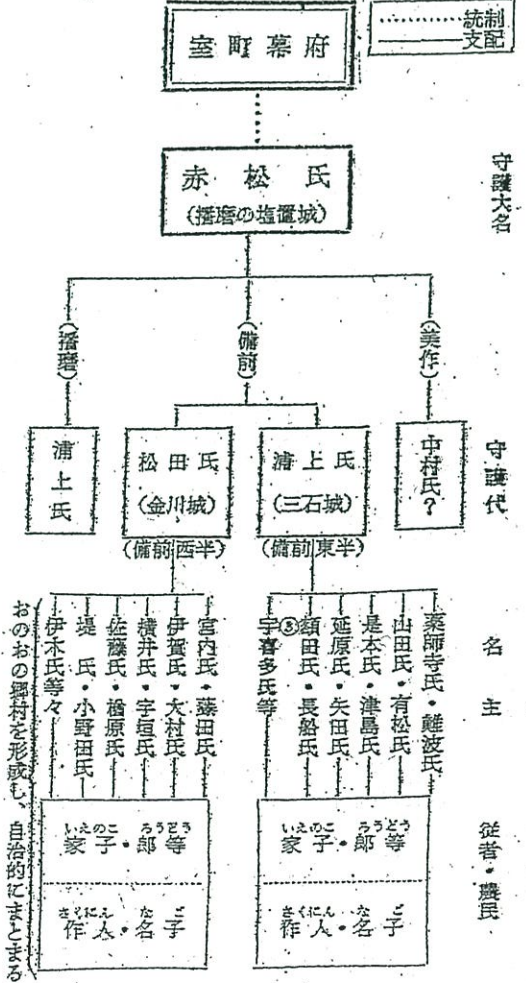
新習・奉公衆松田氏リスト

榎原雅治氏作成

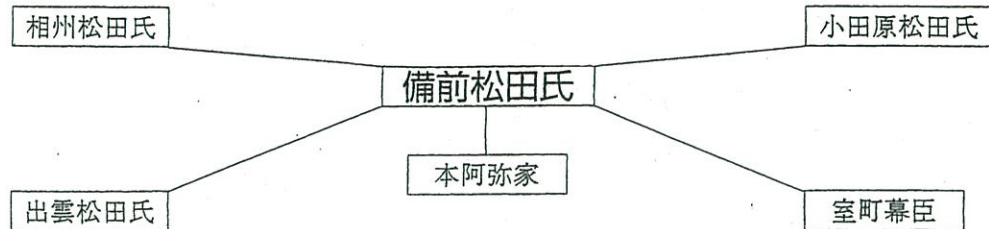
ノ康正2.7.25	義政大将拜賀	松田上野介信朝 松田次郎左衛門尉 (元秀)	帯刀 衛府侍	C B	二階堂文書
ノ康正2	造内裏段銭并国 役引付	松田次郎左衛門尉 (元秀)		B	造内裏段銭并国 役引付(群書類 従部)
ノ康正3.2.25	義政北野社参詣	松田六郎左衛門尉信 貞	布衣侍	C	北野天満宮史料 古記録
ノ長祿2.7.25	義政参内	松田次郎左衛門尉元 秀	衛府	B	報恩院文書
ノ寛正6.5.8	御産所番頭	松田上野(信朝?) 松田次左(元秀?)		C B	親元日記 同日 条
ノ寛正6.8.15	義政石清水放生 会参仕	松田六郎左衛門尉信 貞	帯刀	C	高藤親基日記 同日条
ノ文明11.	義政一家北野社 参詣	松田勝田(元成?)	御侍衆	B	蛸川家文書
ノ文明18.7.29	義尚右大将拜賀	松田上野前司信貞 松田次郎左衛門尉尚 瑞	帯刀 衛府	C B	親長御記 同日 条
ノ文明19.1.25	義尚直衣始	松田上野前司 (信貞?)	帯刀	C	藤沼野日録 同 日条
ノ長享1.9.12	義尚出陣	(備前)松田上野介 (信貞?) 〔向〕松田次郎左衛 門尉(尚瑞?) 〔同〕松田七郎三郎 〔同〕松田七郎右衛 門尉 松田六郎 松田甲斐守	一番 二番	C B D D C	今谷明(室町幕 府解体過程の研 究)所収
ノ明応1頃	東山時代大名 外様附	松田上野介 松田六郎 松田又次郎 松田備前守 松田甲斐入道 松田源次郎	一番 二番	C C B A	

年月日	行 事	人 名	備 考	類 別	出 典
ノ康永1.12.5	天竜寺造営供養	松田備前二郎左衛門 尉信		B	天竜寺造営記録
ノ永和1.3.27	義満石清水参詣	松田備前守		A	花營三代記(群 書類従部)
ノ永和1.4.25	石清水参詣	松田備前守 松田源次郎		A B?	同
ノ永和4.1.23	的始	松田兵庫助 松田又次郎		B	御の日記(群 書類従部)
ノ康暦1.7.25	義満右大将拜賀	松田備前守 松田次郎左衛門尉	帯刀 衛府侍	A B	花營三代記
ノ康暦2.1.20	義満直衣始	松田次郎左衛門尉	衛府侍	B	同
ノ康暦2.1.25	的始	松田兵庫助			同
ノ康暦2.12.25	義満着陣	松田次郎左衛門尉 松田丹後四郎	衛府 衛府	B	花營三代記
ノ康暦3.1.7	義満白馬節会参 仕	松田備前守 松田次郎左衛門 松田丹後八郎満秀	帯刀 衛府侍	A B	同
ノ康暦3.1.13	義満参内	松田丹後八郎(満秀)	衛府		同
ノ康暦3.1.23	的始	松田上野介		C	御の日記
ノ永徳2.1.25	同	松田上野介		C	同
ノ永徳3.1.17	同	松田上野介		C	同
ノ永徳4.1.17	同	松田上野介		C	同
ノ明徳2.3.28	義満石清水参詣	松田平内左衛門尉氏 秀	衛府侍		八幡社参記(群 書類従部)
ノ明徳3.8.20	相国寺供養	松田上野彦次郎藤原 満實 松田三郎藤原清朝 松田次郎左衛門尉藤 原隆秀	帯刀 帯刀 帯刀	C A B	相国寺供養記(群 書類従部)
ノ明徳4.8.15	義満石清水放生 会参仕	松田次郎左衛門尉 松田源次郎(重秀)	衛府 衛府侍	B B?	兼治宿祿記
ノ応永1.9.11	義満日吉社参詣	松田備前三郎藤原清 朝 松田上野彦次郎藤原 満實	衛府侍 衛府侍	A C	日吉社室町殿社 参記
ノ康永3.1.17	的始	松田源次郎(重秀)		B?	御の日記
ノ康永4.1.17	同	松田次郎左衛門尉隆 忠		B	同
ノ康永5.1.17	同	松田次郎左衛門尉隆 秀		B	同
ノ康永6.1.17	同	松田次郎左衛門尉		B	同
ノ康永10.3.28	義持石清水参詣	松田三郎左衛門尉清 朝	衛府侍	A	八幡社参記(群 書類従部)
ノ康永19.8.15	義持石清水放生 会参仕	松田七郎左衛門尉信 朝	衛府	D	京都御所東山御 文庫記乙67
ノ康永28.11.13	義持伊勢代参	松田上野介		C	花營三代記
ノ正長2.3.9	義教元服	松田鹿田次郎左衛門 尉(持朝?) 松田六郎左衛門尉 (信朝?)	衛府侍 帯刀	B C	著広院殿御元服 記(群書類従武 家部)
ノ比叡2.7.25	義政大将拜賀	松田六郎左衛門尉信 朝 松田豊前次郎左衛門 尉持朝	帯刀 衛府侍	C B	建内記・公名公 記同日条
ノ永享9.10.21	室町第行幸	松田次郎左衛門尉持 朝	布衣侍	B	室町行幸記(群 書類従部)
ノ永享10.8.15	義政石清水放生 会参仕	松田六郎左衛門尉信 朝 松田次郎左衛門尉持 朝	帯刀 衛府侍	C B	八幡社参記
ノ永享12.11.15	義政石清水参詣	松田六郎左衛門尉信 朝	布衣侍	C	同
ノ文安年間	文安年中番儀	松田上野介(信朝) 松田二郎左衛門尉 松田三郎(真朝?) 松田七郎左衛門尉 松田修理亮	一番 二番	C B A D	蛸川家文書
ノ宝徳2.7.5	義政大納言拜賀	松田上野介信朝 松田次郎左衛門尉元 秀	衛府侍 衛府侍	C B	康富記 同日 条
ノ宝徳~享徳頃	永享以来番儀	松田上野介(信朝) 松田三郎左衛門尉 (真朝?) 松田豊前守(持朝?) 松田次郎左衛門尉 (元秀) 松田七郎左衛門尉 松田助太郎 松田六郎左衛門(信 貞?)	一番 二番	C A B D C	群書類従雑部 御台相侍

守護大名赤松氏の支配のしくみ(16世紀)



備前松田氏関連



相州松田氏 (波多野義常子松田有常系統) ……神奈川県足柄上郡松田町

- * 松田氏発祥の総本家。* 松田氏、承久の乱で活躍。鎌倉御家人。
- * 南北朝時代に河村氏と共に南朝方新田義興、義治を助け、河村城に籠城し戦う。
- * 戦国時代小田原北條氏筆頭家老となる。(備前松田氏から総本家を継ぐ説あり。)

小田原松田氏 (備前松田氏、相州松田氏養子系統) ……神奈川県小田原市

- * 小田原北條氏筆頭家老として5代100年仕える。
- * 松田頼秀、盛秀、憲秀系統と頼貞(康定)系統あり。
- * 備前松田氏系統、室町幕臣系統の2説あり。

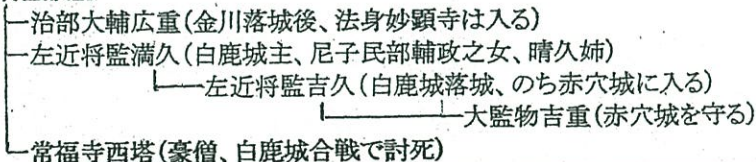
備前松田氏 (波多野氏系統又は藤原秀郷系統) ……岡山県岡山市、金川中心

- * 西遷御家人(鎌倉御家人)。承久の乱で功あり。* 備前法華を広める。
- * 備前守護。室町幕府奉公衆。(備前国では一家のみ)
- * 次郎家、三郎家、六郎家、七郎家、左近将監家の五流あり。
- * 吉備津神社【備前・備中一ノ宮】社務職に関わる・支城多く建立寺院多し。

出雲松田氏 (備前松田氏系統又は安木氏系統) ……島根県松江市、安来市

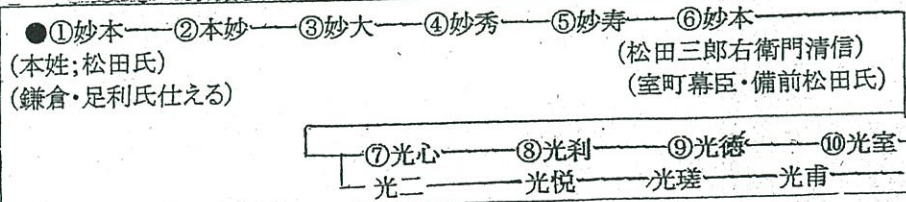
◎出雲松田氏…「島根県八束郡誌」に「松田左近将監満重は金川城4万5千石領有、毛利、宇喜多と数回合戦、尼子氏漸く振るわず、遂に金川にて病没、同所に葬る。」と記載。

●松田左近将監満重



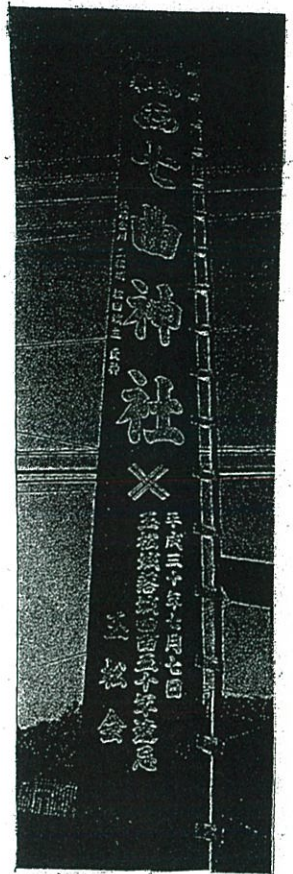
本阿弥家 (備前松田氏系統) ……京都府京都市

* 刀砥ぎ・刀鑑定の本阿弥光悦の3代前当主。日親上人と縁あり。



室町幕臣 (備前松田氏系統) ……京都府京都市

- * 室町幕府近習・奉公衆。
- * 松田次郎、三郎、六郎、七郎、又次郎、彦次郎など。(史料より)



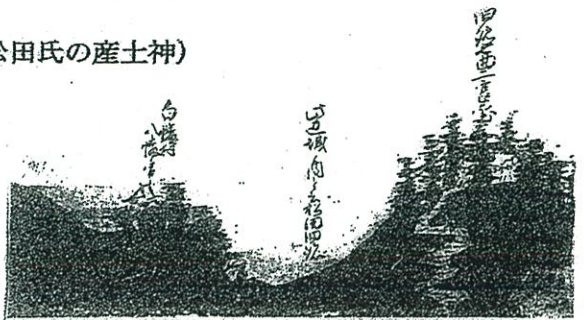
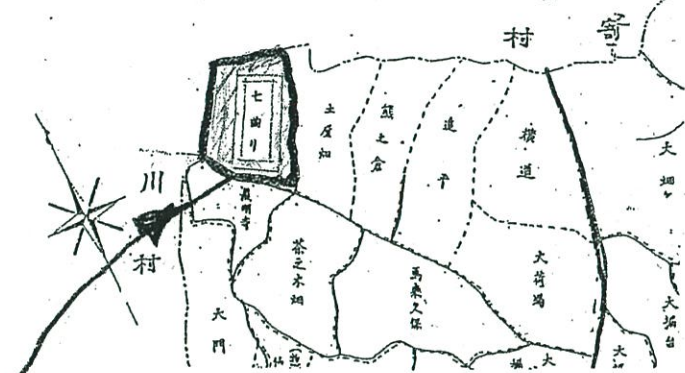
●「加奈川七曲山城」(現在神奈川県横浜市神奈川区浦島)について

備前松田氏の備前入国まえの約60年間居城した「加奈川七曲山城」の特定は、「江戸中期安永8年(1779年)に金川七曲神社(神官)小神富貴氏が、日置公東武ご下向の折に松田の旧跡を訪ね写生した図」を基に平成4年(1992年)に旧跡の探索を行い地元熊野神社官司照本氏、郷土史家前田氏や公図研究家、古文書研究家などの協力で現在の浦島小学校運動場が比定された(二宮台、七曲道なども残存)。尚、平成7年((1995年)には松田氏故地訪問会(玉松会)も訪れています。

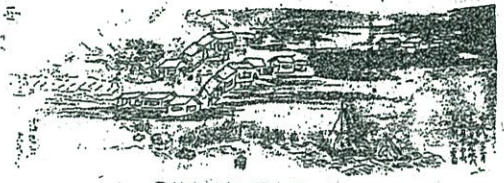
<七曲神社関連>(備前松田氏の産土神)

神奈川縣上野原郡松田町全畧圖

縮一尺二万二千分一



⑩神奈川七曲山の図 安永8年(1779)小神富貴写

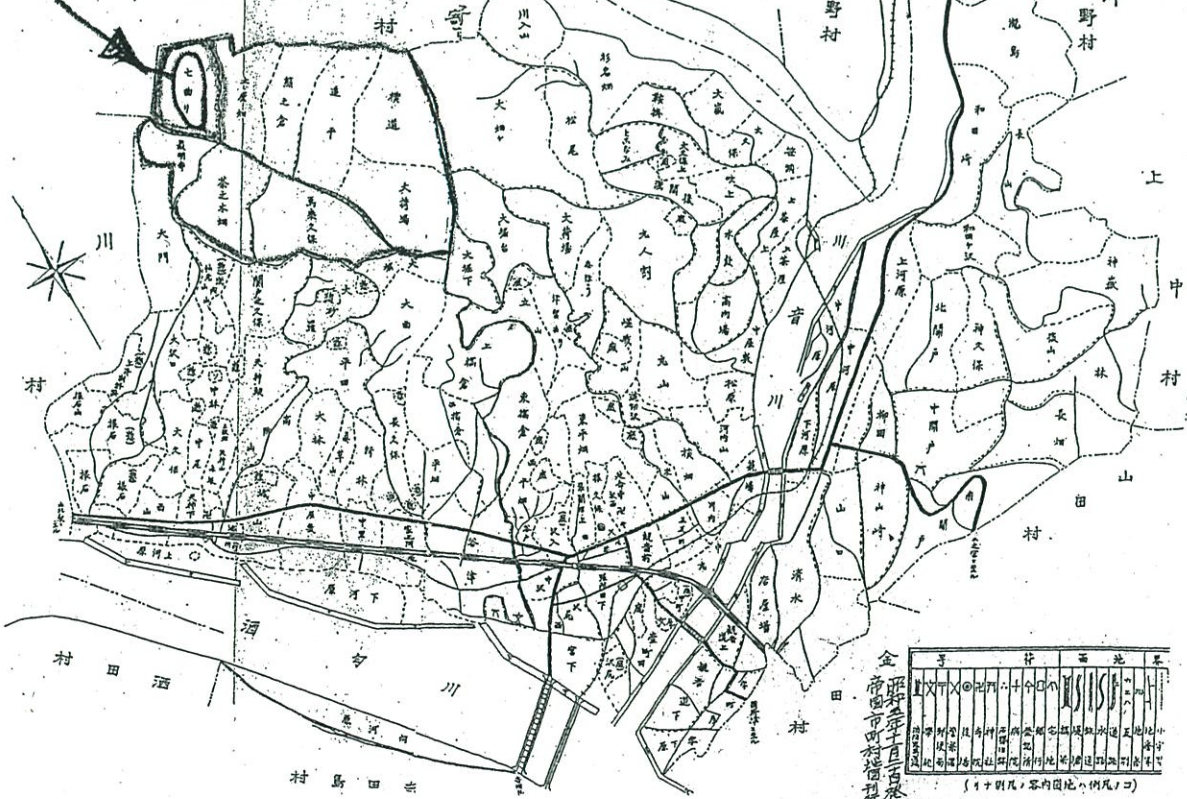


⑪神奈川宿の写生図 安永8年(1779)

加奈川七曲山の図 (岡山県御津町金川・七曲神社所蔵)

神奈川縣上野原郡松田町全畧圖

縮一尺二万二千分一



山	川	河	池	田	村	町	郡	縣
○	△	□	◇	■	●	◎	○	○
山	川	河	池	田	村	町	郡	縣
○	△	□	◇	■	●	◎	○	○

金澤藩士百五郎行
神奈川郡松田町御津金川
〔十ノ四ノ九、各内國地ノ内凡ノコ〕

『松田町皇国地誌残稿』添付 松田町地図(昭和5年)より

小田原北条家紋



三つ鱗

相模松田家紋



二本直連



北条氏「虎」印



松田氏円形印



松田憲秀 壺印

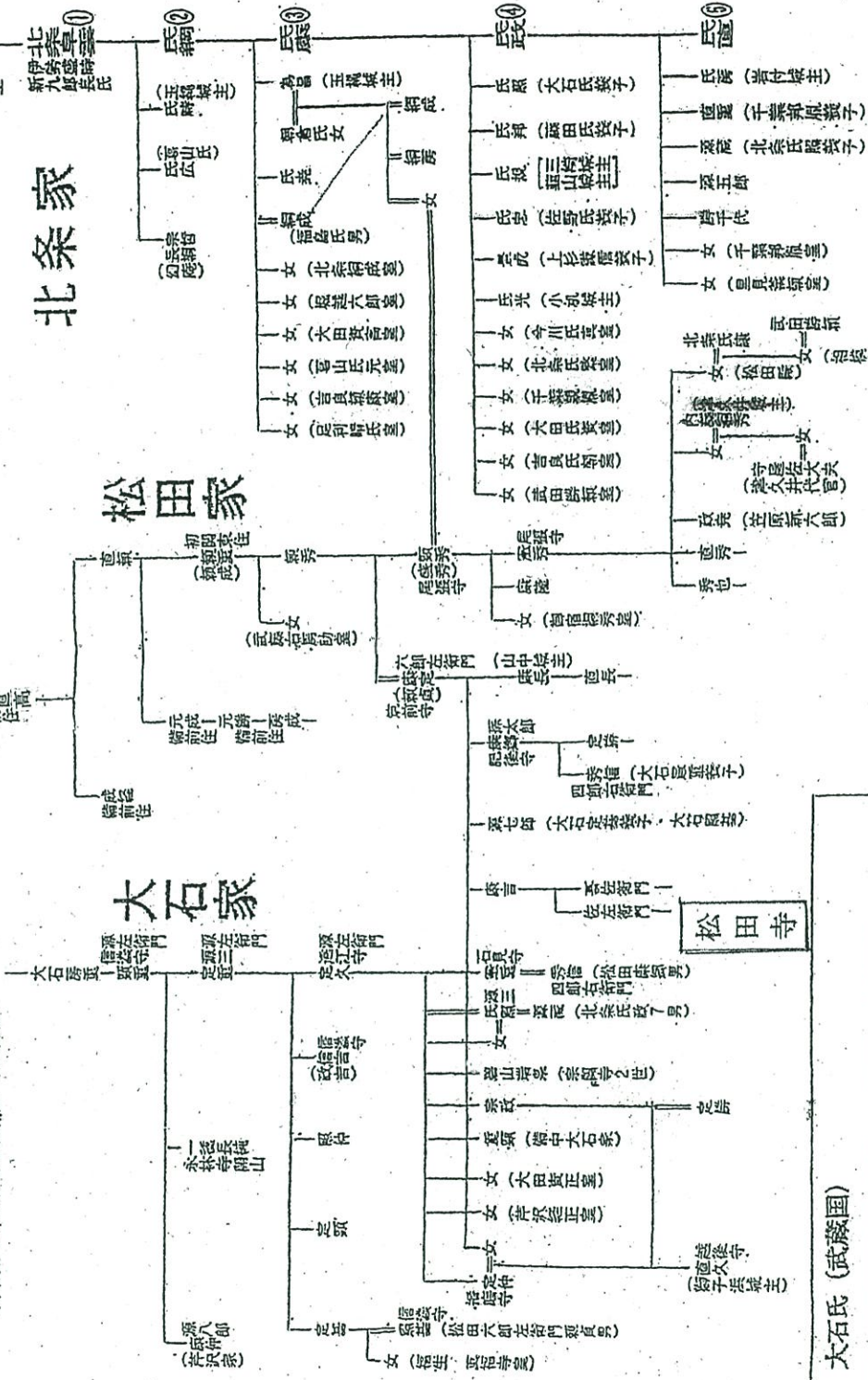
新伊勢
九條盛時
長持氏

北条家

松田家

大石家

小田原北条氏を中心とした
松田氏・大石氏姻戚関係図
(平成15年7月10日作成 松田勝海)



◎ 大石氏 (武蔵国)
室町時代関東管領上杉氏の守護代。木曾氏流。
武州滝山城主 (東京都昭島市)。